

帆足本家 富春館 十周年記念企画

このたび、富春館十周年及び  
新ギャラリーオープン記念と致しまして  
「秦泉寺由子の世界」を開催致します。  
これまでに美術館に收藏された  
作品以外のシリーズ  
コードキルト・オーガニックコットンを  
マホガニー(天然染料)で染めた  
大作(4.5m×2.5m)などの作品を  
帆足本家酒造蔵にて展示致します。  
また、新ギャラリーの2階では  
青竹染めの着物、帯、衣、  
ショール、キルトバック、小物も  
販売致します。  
「舞踏」大野慶人、  
「波紋音」永田砂知子の演奏、  
そして「文案」桐竹勘十郎、  
「青竹染め」秦泉寺由子、  
「迎え花」湯浅法子、  
三者に依るコラボレーションも  
御一緒にお楽しみ下さいませ。

の  
山  
帆  
足  
本  
家

●タイトル書：岡本 光平氏



シマダテ ヨシコ  
秦泉寺 由子氏

1942年香川県生まれ。京都女子大学卒業後、68~80年北米滞在。90年インドネシア・バリ島に工房設立。以来、バリ島と京都を拠点にアジア発のキルト制作に取り組む。作品はビクトリア・アンド・アルバート美術館(ロンドン)などに永久保存されている。著書に『QUILT ARTISTRY』(講談社インターナショナル)など多数。

Profile - Zinzenji Yosiko

2011年  
4月23日 土 — 5月8日 日

時間 10:00~17:00 ※4/25(月)は開館・5/2(月)は休館致します。

◎富春館酒造蔵にてキルト展示、新ギャラリー2階にて青竹染めの作品販売

作家在廊日：4/23(土)~4/29(金)

※期間中この他にも、多数イベントをご用意しております。詳しくは裏面をご覧ください。

---衣帯水---それは九州と中国本土の位置を考慮してつくられた営業なのだろうか。  
長江の南、浙江省あたりと大分とはそれほど近いのである。これに隣接して朝鮮、そして雲南やチベット、ヒマラヤや、さらにインドネシアという風に眺めて見ると、これらのくにぐにの自然と文化には共通したものがある。同文同種の地というべきか。  
永く文人のサロンであり続けた戸次ぎの地に、その新しい息吹が芽生えて10年、それはどのように育っていくのであろうか。  
再びの出発のテープは秦泉寺由子さんのマホガニーのプロジェクトや文案の催しによって切られることになった。  
由子さんの仕事はいつも自ら切り拓く道を辿るもの。彼女の前には原野があっても道はない。  
今回のマホガニーも藤芳やバンブーのプロジェクトと並んでインドネシアの自然と文化とに深く対話しようとする気配に満ちている。乞うご期待である。

十年前、庭の梅の花が満開の頃、富春館の門を開きました。かつての文人墨客が遊んだ足跡が残るこの地をもう一度現代(いま)に甦らせたいとの思いから、衣食住に関わる様々な企画を催してまいりました。その間多くの皆様との出会い、ご縁を頂きました。これまで富春館にお越し下さいましたお客様そしてつたない私どもを支えて下さった方々に心より感謝申し上げます。これからもあたたかく見守って下さいますようお願い申し上げます。

吉日 帆足 統一郎

Message

(有)ユーラシア・クリエイティブ・ジャパン代表取締役 今井 俊博



